

# 町長から行政報告もしました

※一部抜粋

## 平成28年度決算



平成28年度は、浪江町復興計画に位置付ける「復旧実現期」の最終年度として、ふるさとの再生に向けた取組みを本格的に進めました。また、避難生活が長期化する中、町民の皆さまの生活再建支援や絆の維持についても、引き続き重点的に取り組んだところです。

具体的には、町内の住環境を確保するための災害公営住宅および福島再生賃貸住宅の整備、将来を担う子供たちのための認定こども園や小中学校の整備、雇用の創出を目指す産業団地の整備などに着手するとともに、一時宿泊所として「ホテルなみえ」の運営開始、仮設商業施設「まち・なみ・まるしえ」の開設、町内医療体制の確保として「浪江診療所」を開所するなど、精力的に取り組んでまいりました。

また、行政区ごとに農事復興組合が立ち上がり、農地の保全管理を実施いただいたほか、酒田地区では米の実証栽培の実施、町内で栽培された花きなどの出荷、漁業においても試験操業が続けられる中、請戸漁港に6年振りに漁船が帰港するなど、困難な状況下ではあるものの町民の皆さまのご尽力により、生業の再生が進められています。

町としても、こういった方々とともに官民一体となってふるさとの再生を推し進めるべく、様々なニーズに対処きめ細やかに対応しました。

すべき財源を差し引いた実質収支は、3億3,734万9千円の黒字。

財政の健全化判断比率である「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4指標は、いずれも早期健全化基準以下となりましたが、今後も地方債の借入れ等に留意し、健全財政を維持してまいります。

## 特別通過交通制度

また、特別会計についても、全てにおいて、黒字決算となっております。

## 帰還困難区域の特別通過交通



復興計画第二次にも位置付けられている主要幹線道路の特別通過交通については、これまで、議会を始め行政区長会、関係機関等からのご意見をいただきながら、9月のお彼岸からの運用

を目標に、国との協議を進めています。通過交通を進めている路線については、国道114号、県道34号、県道49号の3路線で、現在、その沿線道路や住宅等にバリケードを設置するとともに、必要な防犯対策の準備を進めているところです。

通過交通の具体的な開始時期については、防犯対策等の進捗状況を踏まえ、国、県、その他関係機関等と協議しながら、決定次第、町ホームページ等を通じて、速やかにお知らせしたいと思います。

## 大規模水素製造拠点誘致の取組み

大規模水素製造拠点誘致の取組み

NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が実施する大規模水素製造拠点の整備については、棚塩産業団地を事業用地として立地することが、8月1日に正式決定しました。

現在、調査設計および用地取得等を進めており、その後、計画的に設計・

## 復興加速に向けた協議会



当町の復興を確実に実現していくため、国・県と、「浪江町の復興加速に向けた協議会」を設置しており、7月24日に第2回の復興協議会が開催されました。

協議会では、「まちづくり」、「農林水産業再生」、「産業復興」の分野ごとに、復興の進捗を確認しながら、直面する課題や長期にわたる財政支援について、議論を行いました。

## 町内の住宅整備



整備を進めてきた幾世橋住宅団地については、第1期工事分22戸が6月に完成し、6月30日に完成式と鍵の引渡しを行い、同日より入居開始となりました。

また、旧雇用促進住宅の幾世橋集合住宅についても8月に完成し、8月29日に竣工式と鍵の引渡しを行い、同日より入居を開始したところ。

現在、工事を進めている幾世橋住宅団地第2期工事の63戸についても、工事を着実に進め、帰還に向けた住環境の確保に努めてまいります。

## 津波被災地の復興

防災集団移転促進事業による宅地等の買取りについては、契約手続中を含め、面積比で91.2%の契約状況となっております。

また、移転先住宅団地の整備については、分譲地整備について幾世橋地区7区画の工事が完了し、7月31日より申込み受付を開始しています。請戸地区16区画については造成設計に基づき、今後、用地取得を進めてまいります。

## 「いこいの村なみえ」の整備

一時帰宅をされる町民や事業者の方々の滞在施設として、いこいの村なみえの敷地内に、ログハウスタイプの仮設住宅を活用した滞在施設の移築整備工事に着手しました。

さらに、いこいの村本館や浴室の改修工事等も実施しており、町民の憩いの場として早期に再開できるよう、事業を進めてまいります。

## 町内交流事業



8月12日、13日に、「心のイノベーション笑夏」、「サマーフェスティバルインなみえ」と称し、町内では7年振りとなる盆踊りと花火大会を開催しました。

イベント当日は、多くの町民の方々が会場を訪れ、浪江の夏を満喫いただきました。

また、十日市祭を今年11月25日、26日にかけて、7年振りに町内で開催します。

引き続き、町内での交流事業を積極的に開催し、町民が集い、町民同士、また町と町民の絆を深めてまいります。

検証委員会を設置し、同日に第1回の委員会を開催しました。

今年度は、計4回の委員会開催を予定しており、除染作業の検証および現地での調査等を実施し、引き続き、帰還した町民の方々の放射線に対する不安解消に努めてまいります。

## 飲料水等安全確保 支援事業

上水道給水区域外で帰還を希望する住民の安全・安心な飲料水を確保するため、8月末現在で4か所の井戸設置工事を行っています。

引き続き、住民の帰還促進のため、積極的に取り組んでまいります。

## 雇用の場の創出・ 企業誘致の 取組み



北および南産業団地整備については、基本設計、地権者への事業説明が完了し、現在、用地取得を進めています。今後は実施設計、造成工事を計画的に実施してまいります。

また、早期に進出を希望される企業へ提供する用地として、昨年度取得した浪江日本ブレイキ跡地については、既存建屋の解体工事および敷地整備工事を着工し、年度内には藤橋産業団地として新たな企業へ提供ができるよう進めています。

さらには、大規模水素製造拠点およびロボットテストフィールドの誘致箇所として整備を進めている棚塩産業団地においても、イノベーション・コース

ト構想関連産業の誘致を目指し整備を進めています。

企業誘致の取組みについては、進出希望のある蓄電池関連企業やコンクリート二次製品製造企業など立地向けた話し合いを進めているほか、進出に前向きな企業へのアプローチを進めています。

## 帰還促進・事業再開 支援事業



町内での需要喚起・地域経済活性化により町内再開事業者や町民双方の帰還促進に資することを目的とし、7月1日よりプレミアム付商品券の販売を開始しました。

8月末までの販売実績は、購入者数831人、販売額4,178万5千円となっております。

また、商品券取扱店は、37件の店舗にご登録いただいています。

更なる事業促進のため、町民の皆さまには、町広報紙やホームページを通じて、周知してまいります。

## 町内の除染・ インフラ復旧

## 除染検証委員会の設置

昨年度に引き続き、6月19日に除染

## 営農再開



8月19日に、町民14名で組織する「浪江町花卉研究会」が発足しました。この会は、施設園芸を主体とする「切り花部会」と、露地で花木を栽培する「花木部会」で構成され、地域振興に貢献することを念頭に、会員相互の情報交換や生産品質向上を目的に設置されました。

また、8月25日には、町内で活動する13の復興組合の方々を対象に、津波被災を克服し、営農活動を再開した仙台市の農事組合法人の取組みの視察研修を実施しました。

町としても、当花卉研究会や復興組合など、町内での営農再開を目指す農業団体等の活動を、今後も積極的に支援してまいります。

## 有害鳥獣対策

有害鳥獣対策については、帰還した住民からも特にニーズの高い重要課題として、今年度より捕獲隊を増員し、

対策を強化しているところです。

7月末までの捕獲頭数は、イノシシ117頭、アライグマ46頭となっております。

今後も引き続き、取組みを継続し、町民の方々の安全・安心の確保に努めてまいります。

## 町民の健康管理

## 健康管理・総合健診



昨年度までの総合健診や県民健康管理調査の分析結果において、震災前と比較して、肥満者の増加、高血圧症、糖尿病、脂質異常などの割合が高いという傾向が示されています。

こうした状況から、町では町民の健康維持・増進を図るため、総合健診事業を昨年度より実施日数を増やし、9月9日から延べ22日間にわたり、県内

各会場で実施します。

さらに、受診機会を確保するため、福島市、相馬市、南相馬市内の医療機関における基本健診等の受診体制の整備に加え、郡山市、いわき市の医療機関におけるがん検診の受診体制を構築しました。

今後も引き続き、町民の健康維持増進に積極的に取り組んでまいります。

## 生活支援について

## 応急仮設住宅

8月22日現在の仮設住宅の入居状況は、供与戸数2,606戸に対し入居戸数が620戸、入居者数は1,091名、入居率は、23・8%となっております。

また、8月28日に福島県は、仮設住宅の供与期間を、更に1年間延長することを発表しました。

今後は、入居者の孤立防止など安全・安心を確保するため、仮設住宅の集約を進めるとともに、住宅確保の見直しを立てられずにいる方に対しては、できる限り懇切丁寧な支援に努めてまいります。

## 町外の復興公営住宅



町外の復興公営住宅の入居状況については、8月1日現在で1,639世帯、2,879名の入居が決定し、1,446世帯、2,547名が入居を開始しています。

また県は、今月中に開始される再募集の応募状況により、その後の募集から、一部の空き住戸の応募要件の見直しを行い、避難指示が解除された区域の住民についても、入居申込みができるようにするという意向を示しました。今回の要件緩和は、あくまでも一部の団地のみとなることから、町としては、入居意向のある町民が、空き住戸がある団地全てに応募できるよう、引き続き、県に対して求めてまいります。

## 賠償支援

75歳以上の高齢者世帯996世帯を対象に、意向調査で支援を希望された441世帯に対し、昨年度から請求支援を実施しています。

このうち、実際に訪問支援の申し出のあった世帯は、7月末現在で214世帯となっており、これらの世帯の方々に対して訪問支援を行い、未請求損害の解消に努めているところです。今後も引き続き、対象者への支援を継続してまいります。

## 学校教育

### 教育行政について



平成30年4月の開校を目指している新設の小・中学校の校名については、

一般から公募し、応募結果を参考に、学校教育復興推進協議会での慎重な検討を重ね、教育委員会定例会において、「なみえ創成小学校」・「なみえ創成中学校」に決定しました。

## 生涯学習



双葉郡8町村が集う双葉郡スポーツ交流大会が、7月9日に当町と広野町の2町で開催されました。

当町では、地域スポーツセンターを会場に、開会式のほかバレーボールと剣道競技が行われました。

町からは、野球、バレーボール、剣道の3競技に出場し、野球は2年連続で優勝しました。

また、町長杯ソフトボール大会を、7月15日に本宮市白沢総合運動場で開催しました。県内外の避難先から6チームが参加し、晴天の中、熱戦が繰り広げられました。

今年1月から一部の利用を開始した地域スポーツセンターについては、帰還した住民等から利用時間拡大の要望

## 子育て支援



が多くあったことから、9月から休日と夜間の利用時間の拡大を開始しています。

平成30年4月の開園を目指して建設を進めてきた幼保連携型認定こども園「浪江にじいろこども園」が、7月31日に建設工事が無事完了しました。現在、備品の納入が完了し、年内に一時預かり保育を開始するため、準備を進めています。

ここからは広告です。

# ご自宅のお悩みございませんか？

修繕

片付け

清掃

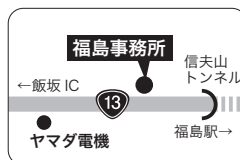
etc... ご相談ください!

従業員  
随時募集中!



誠意と技術で奉仕する  
**東北工業建設株式会社**

本社 〒979-1502 浪江町大字藤橋字原 59-1  
福島事務所 〒960-8252 福島市御山字検田 58-1  
TEL.024-573-4127 FAX.024-573-4128



お問合せは  
担当のおざきまで  
お気軽にお電話下さい。  
**024-573-4127**

